

6月14~16日、新たな段階に入る原職奪還の闘い

営業対策全体会議開催

新たな段階に入る原職奪還闘争

六月一四日から一六日までの各日、動力車会館において、「営業対策全体会議が行なわれた。これは、六月六日に提案された、「直営店舗の閉店等について」で出された、別掲の閉店の対象となった組合員及び、「今後も随時移管していく店舗」の対象となつていく組合員二四名を対象として、交渉の経過等状況を全員に説明し、率直な意見を聞く場となった。

希望を踏み躪られ続けた

積年の怒りを叩きつけよう!

日刊四二〇三号において速報した通り、千葉支社は、今後関連事業について、「閉店店舗」は、(1)、キヨスク型売店はキヨスクへ移管、(2)、J.C店は京葉企画へ移管、(3)、船橋そば店は京葉観光と折衝中、(4)、稲毛海岸ファミリーゴルフについては、京葉企画でミニ駅ビルを計画中とし、「今後の関連事業については、(1)、残存店舗については今後随時移管していく、(2)、J.C店については新設を計画立案していく、としている。

また、「配転」の希望調査については、六月一二日から月末までに希望調査を行なうとしている。

勝浦運転区廃止攻撃と同根の

「JR体制」との闘い!

営業対策会議は、本部布施副

委員長、田中書記長、山田交渉部長が出席して三日間にわたり開催され、布施副委員長より、①、「分割・民営化から一〇年目」を射程にした押し寄せる攻撃―勝浦運転区廃止攻撃、貨物基地統廃合攻撃、それと期を一致した営業関係の売店・そば店の全面外注化の背景・情勢・現状等が克明に打ち出され、②、清算事業団二七兆円の赤字や、貨物・三島にみられる完全に行き詰まった、この「一〇年目」以降をどうするかということでは、「経営形態の変更」に踏みこまざるをえず、必ず大量首切りと労働運動解体攻撃へと収斂するものだということが、会議を通してより鮮明なものとなった。③、さらに「塩づけ」攻撃の開始から今日にいたるまでの経過は、勝浦運転区廃止攻撃と根は同根であり、「JR体制」との闘いと最も最前線の攻防をせめぎあってきた。こ

組合員の切実な要求に応えざる

闘いの組織化を全体で確認!

そのうえで「売店・そば店廃止に対する闘いをつくらせていくとき、組織としては、①、強制配転者を中心に営業から運転への原職奪還の闘い、②、健康等の面から営業職等を希望している組合員の要求を貫徹していく闘い、③、また今後も営業職等を希望している組合員の要求に応える闘い、の三つの闘いの方向性を確認しておくことが肝要

閉店店舗一覽

店舗名	要員	閉店時期(日途)等
なのはな新木場	▲ 5	95年8月18日 計▲19
なのはな葛西臨海公園	▲ 4	
なのはな舞浜	▲ 5	
なのはな新浦安	▲ 3	
なのはな蘇我	▲ 2	95年10月6日 計▲17
京葉ファミリーゴルフ	▲ 8	
なのはな蘇我	▲ 4	95年11月22日 計▲24
なのはな南船橋	▲ 3	
なのはな新習志野	▲ 4	
なのはな海浜幕張	▲ 5	
なのはな検見川浜	▲ 5	
なのはな稲毛海岸	▲ 3	95年11月30日 計▲24
なのはな千葉みなと	▲ 10	
スタンディー本八幡	▲ 7	
J.C木更津	▲ 7	96年2月23日 計▲26
J.C四街道	▲ 11	
なのはなそば船橋	▲ 8	
J.C東船橋	▲ 7	
J.C茂原	▲ 7	
合計	20店舗	▲110

だ。そのどれも重要なものであり、組合員の切実な要求に応えざる体制で今後、団体交渉を強化し、当局側の対応によっては随時闘争を対峙していくことが全体で確認された。

反古にされ続けた経緯を許すな

「今後は全員が営業職を経験

してもらおう」、「早くいけば早く帰れる」とした、「配転」時の経緯を反古にされ続けた怒りの大きさを会社側に叩きつけよう!新たな段階に入った原職奪還の闘いは、「JR体制」打倒の闘い―勝浦運転区廃止攻撃と同根の闘いとしての観点から、闘いを強化しなければならない。

戦後五〇年攻撃をはねかえし、二度と侵略戦争を許さない

六・一五反戦全国集会

日時 六月二十五日(日) 正午より

場所 東京・明治公園(総武線千駄ヶ谷駅徒歩八分)

指定列車 千葉駅八番線発 一〇時四六分発快速最後部

動員範囲 勝浦支部を除いて各支部とも全力動員

大失業時代と対決する労働運動の真価かけ決起しよう!